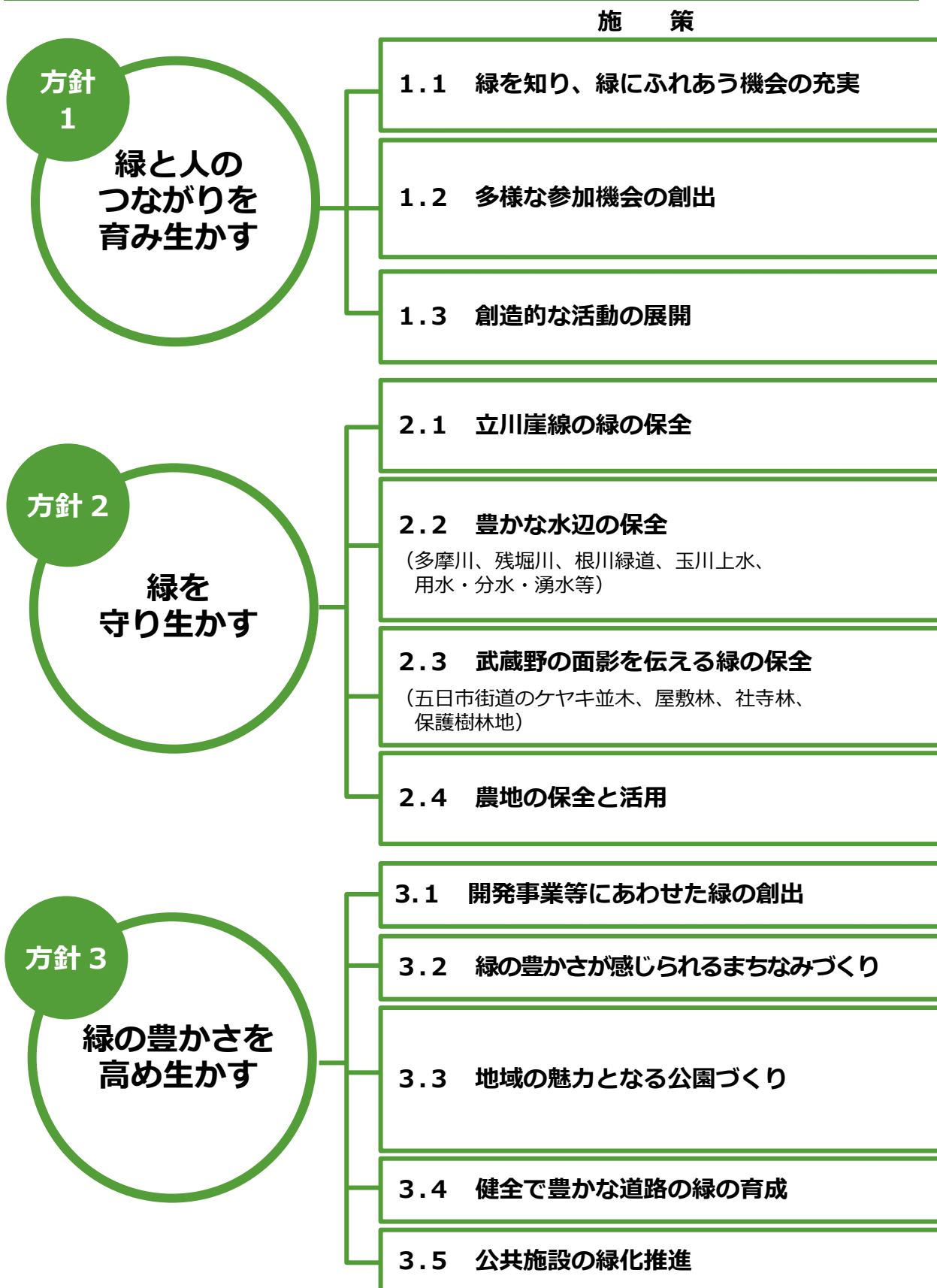


第4章 緑地の保全及び緑化の推進のための施策

第1節 施策体系



＜重点的な取組の設定について＞

本計画において重視している市民とともに緑を育み、増やす取組の充実に向け、今後のモデルとなる取組を「重点的な取組」に設定し、5年間の事業計画を示します。

主な取組



市民参加の取組

重点

重点的な取組

①緑に関する情報発信の充実

重点

②立川の緑の魅力の共有と発信



重点

①保存樹木、保護樹林地等の保全における市民、ボランティア団体との協働推進



重点

②公園の管理、地域緑化への市民参加の促進



③多様な参加機会の創出



①立川公園ガニガラ広場を拠点とした活動の拡大



重点

②さまざまな活動をつなぎ、広げるしくみづくり

①崖線の緑の保全と安全確保

②矢川緑地の湿地環境の保全

①多摩川、残堀川の河川環境の保全と水辺空間の適正利用

②根川緑道の桜並木とせせらぎの保全



重点

③玉川上水の保全

④用水・分水、湧水の保全

①五日市街道のケヤキ並木の保全



②屋敷林、社寺林等の保全



③保存樹木、保護樹林地等の保全における市民、ボランティア団体との協働推進【再掲】



重点

①さまざまな制度を活用した農地の保全

②市民の農への関心向上とふれあいの促進



①多様な手法を活用した緑化の推進

①接道部を中心とした住宅地の緑化推進



①公園の活用や計画的な整備

②身近な公園の機能見直しと再生



③地域住民、民間事業者と連携した公園の柔軟な活用



重点

④安全で快適な公園利用を支える維持管理の推進

重点

①街路樹の適切な植栽と維持管理

①公共施設再編に合わせた緑の質の向上

第2節 施策の内容

市民、事業者、市が協力して3つの方針に基づく12の施策を進め、「グリーンインフラ」の考え方に沿って環境保全、防災・減災、健康・福祉の向上、地域コミュニティの醸成などの緑の多様な機能を生かし、みながともに緑を誇れるまちづくりを推進します。

方針 1

緑と人のつながりを育み生かす

施策1.1 緑を知り、緑にふれあう機会の充実

①緑に関する情報発信の充実 **重点**

市民が身近な緑について知り、関心を持つ機会を多くつくり、市民と緑との関わりを増やしていくため、身近な緑の存在について、市民に向けた情報発信を進めます。



毎年4月に開催する緑化まつり

②立川の緑の魅力の共有と発信 **重点**

緑に対する共感を広げていくため、緑ある暮らしの心地よさやまちの魅力となる緑について、市民から情報を集め発信していくとともに、市民自身が発信できる機会を設けていきます。

施策1.2 多様な参加機会の創出

①保存樹木、保護樹林地等の保全における市民、ボランティア団体との協働推進 **重点**

市民参加による緑の保全を進めていくため、保存樹木、保護樹林地等保全ボランティアへの支援を進めるとともに、参加を促進していくため、活動について広く市民に知らせる取組を進めます。

②公園の管理、地域緑化への市民参加の促進

緑化推進協力員会、公園等清掃美化協力員会、公園等管理協力員等の取組を継続するとともに、参加を促進していくため、活動について広く市民に知らせる取組を進めます。



花苗の植付をする緑化推進協力員

③多様な参加機会の創出

緑と関わる活動に参加する市民のすそ野を広げていくため、活動を体験できる機会の創出や寄附制度の検討など、多様な参加機会の創出に取り組みます。

施策1.3 創造的な活動の展開

①立川公園ガニガラ広場を拠点とした活動の拡大 **重点**

平成29（2017）年に開園した立川公園ガニガラ広場の一画には、玉川上水から取り入れられた柴崎分水の水を使った市内唯一の田んぼがあり、市民参加で田植えなどが行われています。

このガニガラ広場を拠点として、農のある風景の継承、崖線の緑と湧水の保全、樹林地などに生息・生育する生きものの保全など、市民のアイデアを生かした活動を広げていきます。

②さまざまな活動をつなぎ、広げるしくみづくり

市民活動をさらに活発化させ、創造的な活動へと広げていくため、さまざまな活動に取り組む市民の交流の場づくりなど、人や活動をつなぎ広げるしくみを検討します。



ガニガラ広場（東側階段入口からの景色）

方針 2

緑を守り生かす

施策2.1 立川崖線の緑の保全

①崖線の緑の保全と安全確保

崖線の緑を保全し、緑の連続性を維持しつつ安全を確保するため、都市計画公園・緑地区域内の樹林地の保全を進めます。

また、未整備の都市計画公園・緑地区域内の樹林地の保全優先度を評価し、対応策を検討します。



複数のアンカーボルトで斜面を固定し、崖線の樹木をできる限り残した安全対策の例（立川公園内）

②矢川緑地の湿地環境の保全

市内唯一の湿地環境である矢川緑地を保全するため、東京都と市の協定に基づく管理を継続します。また、矢川緑地の存在と貴重な環境を市民に知ってもらえるよう、情報発信に取り組みます。

施策2.2 豊かな水辺の保全

①多摩川、残堀川の河川環境の保全と水辺空間の適正利用

河川管理者である国、東京都と連携して、多摩川、残堀川の河川環境を保全します。また、不法投棄の防止など、水辺空間の適正な利用に向けた市民への普及啓発に取り組みます。

②根川緑道の桜並木とせせらぎの保全 重点

桜の名所として多くの市民に親しまれ、市域を超えた利用者が期待できる観光資源である根川緑道について、桜並木とせせらぎを保全し、良好な景観を残すとともに安全性を確保するため、適切な維持管理に取り組みます。

また、市民協働のプログラムを活用した桜の手入れを推進します。



根川緑道の桜並木

③玉川上水の保全

旧来の姿に近い風景を残す市内の玉川上水を守り継いでいくため、緑道樹木の管理目標を関係機関（東京都水道局、東京都建設局、市）と共有するしくみを検討します。

④用水・分水、湧水の保全

かつての新田開発を担ってきた歴史的・文化的資産であり、市民に親しまれた身近な水辺であった用水・分水の水路の管理状況を把握し、維持管理を継続していきます。

河川の水質調査、立川崖線の湧水調査、地下水調査を継続して、状況変化を把握します。また、立川崖線沿いの矢川緑地などの湧水及びそこに生息・生育する生きものの保全を図るとともに、大雨時の雨水流出抑制を図るため、台地上の地域における雨水浸透を促進します。流水や湧水が確保できる公園を整備する場合は、水の流れを創出し、水に親しみやすい公園の整備に努めます。

施策2.3 武蔵野の面影を伝える緑の保全

①五日市街道のケヤキ並木の保全

五日市街道のケヤキ並木は、軽い火山灰土が春先の強い風に舞い上がって起こる砂ぼこりを防ぐために、周辺の農家には欠かせない防風林として、江戸時代の新田開発を機に植えられるようになったと伝えられています。

地域の歴史を伝える存在である並木を保全していくため、五日市道風致地区の保全、保存樹木等の指定を通じた管理支援を継続します。また、ボランティア団体や地域住民との協働による落ち葉清掃などを通じた所有者の負担軽減、地域住民の理解を醸成する普及啓発に努めます。さらに、関係部署と連携してケヤキ並木の実態把握と保存の方法を検討します。

②屋敷林、社寺林等の保全

武蔵野の郷土景観を今に伝える農家の屋敷林や社寺林等のまとまった緑を保全していくため、緑化推進条例に基づく保存樹木、保護樹林地の適用により緑の減少の低減を図ります。

また、相続、維持管理に加え、近隣住民からの落ち葉への苦情も所有者の負担となっていること、気候変動の影響による台風の強大化を背景に倒木の危険性が増大していることから、緑地、樹林地等保全ボランティア団体と協働による管理支援を継続するとともに、近隣住民の樹林地に対する理解促進を図り、落ち葉清掃のイベント化などを検討します。

③保存樹木、保護樹林地等の保全における市民、ボランティア団体との協働推進 **重点**

【再掲】

市民参加による緑の保全を進めていくため、保存樹木、保護樹林地等保全ボランティアへの支援を進めるとともに、参加を促進していくため、活動について広く市民に知らせる取組を進めます。

施策2.4 農地の保全と活用

①さまざまな制度を活用した農地の保全

本市の農地は、郷土の歴史を伝え、本市の特徴的な景観を形成するとともに、防災空間としての機能、雨水の貯留・浸透などの多面的機能により市民の暮らしを支えています。しかし、市北部における農地のスプロール[※]的市街化などを背景に減少傾向が続いています。農地のもつ多面的機能を生かし、良好な環境を形成していくため、特定生産緑地の指定、都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づく制度など、さまざまな制度を活用し、農地の保全を進めます。

②市民の農への関心向上とふれあいの促進

立川市の郷土景観としての農地、都市農業に対する市民の関心を高めていくため、市民農園、体験型農園の利用、援農ボランティア、親子での収穫体験など、市民と農とのふれあいを促進します。

また、地域の農の歴史や農地が持つ防災機能、景観形成機能などの多面的機能に関する情報発信に取り組みます。



市民農園

方針 3

緑の豊かさを高め生かす

施策3.1 開発事業等に合わせた緑の創出

①多様な手法を活用した緑化の推進

開発地等において、民間事業者と連携して質の高い緑化を誘導し、視界に入る緑を増やしていくため、緑化技術の進展や、開発事業者の意見などを考慮し、緑化面積の算定において、現在は算入対象に含めていない壁面緑化、地被植物（芝生等）による緑化等の取扱いを検討します。

また、事業者に向け、緑のネットワーク形成や快適性、安全性、景観、生物多様性等に十分配慮した緑化に関する普及啓発を進めます。

施策3.2 緑の豊かさが感じられるまちなみづくり

①接道部を中心とした住宅地の緑化推進

接道部に重点を置いた緑化を促し、緑の豊かさを視覚的に感じられるまちなみを形成していくため、市民に向け、塀や柵を活用した緑化事例の情報発信、ガーデニング講座の実施などによる緑化の普及啓発に取り組みます。また、景観セミナーや出前講座、まち歩きなど景観づくりに向けた景観教育に取り組み、心地よく暮らせる環境を市民と協力してつくっていきます。

施策3.3 地域の魅力となる公園づくり

①公園の活用や計画的な整備

公園の規模と配置に偏りが生じている現状を踏まえつつ、防災、環境保全等の面から必要な公園整備を計画的に推進するとともに、公園の新たな活用も検討します。公園整備に際しては、ワークショップ等を通じて市民の意見を考慮して公園づくりを進めます。

一定規模の公園が充足している地域については、開発時の提供公園設置基準の見直しを検討します。

②身近な公園の機能見直しと再生

本市では、似たような小規模公園が近接しており、あまり利用されない公園も存在しています。

複数の小規模公園が連携して地域の多様なニーズを満たせるよう、ワークショップ等を通じて市民の意見を取り入れ、機能を見直し、地域住民が愛着を持って利用できる公園への再生を進めます。

③地域住民、民間事業者と連携した公園の柔軟な活用 重点

地域住民に利用される公園、地域のまちづくりに生かされる公園をふやしていくため、公園の管理、活用における地域住民、民間事業者との連携を促進します。

また、ニーズの高い活用策については、施設管理方法を検討した上で試験的に実施し、多様な利活用を推進します。

④安全で快適な公園利用を支える維持管理の推進 重点

市民がいつでも安全で快適に身近な公園を利用できるよう、公園の管理運営方針を定め、法令及び国の指針等に基づく遊具の安全点検の継続、公園施設の長寿命化、都市公園の樹木の点検・診断等を進めます。

公園などに設置されたかまどベンチ等の防災設備について、地域の防災訓練において利用体験の機会を設けるなど、利用方法の普及に努めます。

施策3.4 健全で豊かな道路の緑の育成

①街路樹の適切な植栽と維持管理

道路を軸とした緑のネットワークを形成していくため、都市計画道路、幹線道路の新設、拡幅時に緑化を進めます。

既存の街路樹について、道路幅員に合わない樹種を植栽したことによる根上がりや生育不良、車椅子やベビーカーの通行への支障などの問題が生じていることから、「街路樹のあり方方針」により、幅員、樹種に応じた街路樹の管理目標、老木植替時の幅員構成に合った樹種への転換など、適切な維持管理に努めます。

施策3.5 公共施設の緑化推進

①公共施設再編に合わせた緑の質の向上

公共施設の再編に合わせて、良好な環境の創出につながる緑化や雨水の地下水涵養を推進し、民有地緑化の模範となる緑化と緑の管理に取り組みます。

また、公共施設整備における緑化の情報を蓄積し、今後の緑化と管理に反映していきます。

第3節 重点的な取組

本計画において重視している市民とともに緑を育み、増やす取組の充実に向け、今後の取組のモデルとなる5つの重点的な取組について、5年間の事業計画を示します。

重点的な取組 1

立川の緑の情報と魅力の発信

関連する主な取組：施策1.1①(p.46) 施策1.1②(p.46)

①取組内容

- ・苗木や花苗の無料配布、スタンプラリー、緑の募金、緑の相談などを通じて、市民の緑への関心を高める催しとして、「緑化まつり」（毎年4月）の開催を継続します。
- ・身近な公園のことを市民に知ってもらい、利用してもらう機会を増やしていくため、子育て世代を対象とした幼児向け遊具・トイレ設備の情報提供、高齢者に向けた健康遊具の情報提供、多世代に向けた花の見ごろや紅葉の情報提供など、公園の施設や魅力を伝える情報発信を進めます。
- ・立川農業の魅力発信を目的に、市内の農業の魅力が伝わる写真を募集する「『立川の農』写真コンテスト」（令和元（2019）年開始）を継続します。
- ・農業広報誌「立川育ち」によるファーマーズセンターみのれ立川の紹介、農業祭のお知らせ、災害時の農地利用の周知を継続します。



第1回「立川の農」
写真コンテスト
募集記事

②事業計画

取組	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)
緑化まつり開催【継続】	※	→	→	→	→
市内の公園情報の発信【新規】		→	→	→	→
「立川の農」写真コンテスト【継続】	→	→	→	→	→
農業広報誌「立川育ち」による情報発信【継続】	→	→	→	→	→

※令和2（2020）年度の緑化まつりは、新型コロナウイルスの影響により中止。

重点的な取組 2

立川公園ガニガラ広場を拠点とした活動の拡大

関連する主な取組：施策 1. 3 ① (p. 47) 施策 2. 2 ② (p. 48)

①取組内容

- ・立川公園のガニガラ広場における市民参加の田んぼの管理活動を継続します。また、活動の中で出された市民のアイデアの実現を支援します。
- ・市の貴重な財産であり観光資源である根川緑道の桜を保全するため、緑地・樹林地等保全ボランティア団体と協働して、市民参加で土壌改良を実施します。

②事業計画

取組	令和 2 (2020)	令和 3 (2021)	令和 4 (2022)	令和 5 (2023)	令和 6 (2024)
田んぼづくりなどの活動 【拡充】					→
市民協働のプログラムを活用 したサクラの手入れ【継続】					→



ガニガラ田んぼネットによる田んぼの活動



NP0 法人集住グリーンネットワークによる
土壌改良作業



子ども自然体験の市民講座



ガニガラ広場の多様な自然環境の市民講座

重点的な取組 3

保存樹木、保護樹林地等の保全における
市民、ボランティア団体との協働促進

関連する主な取組：施策1. 2①(p. 46) 施策2. 3③再掲(p. 49)

①取組内容

- ・ 保存樹木、保護樹林地等の保全に取り組むボランティアへの支援を継続します。また、ボランティア団体から出されたアイデアの実現に向けて支援策を検討します。
- ・ 緑化まつりなどにおいてボランティア団体の活動を広く市民に知らせる広報を実施します。
- ・ 各団体が持つ樹林地等の管理に関する知識や経験を共有する交流・情報交換の機会をつくれます。

②事業計画

取組	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)
保存樹木、保護樹林地等保全 ボランティアへの支援【継続】					
ボランティア団体による活動 の広報【拡充】					
団体の交流・情報交換の機会 づくり【新規】					



ボランティア対象のセミナーにて
樹木の保全方法を学ぶ
NPO 法人グリーンサンクチュアリ悠のメンバー



立川自然観察友の会による
「立川崖線ウォーク」



立川崖線の自然を守る会による
竹林の下刈り

重点的な取組 4

地域住民、民間事業者と連携した公園の柔軟な活用

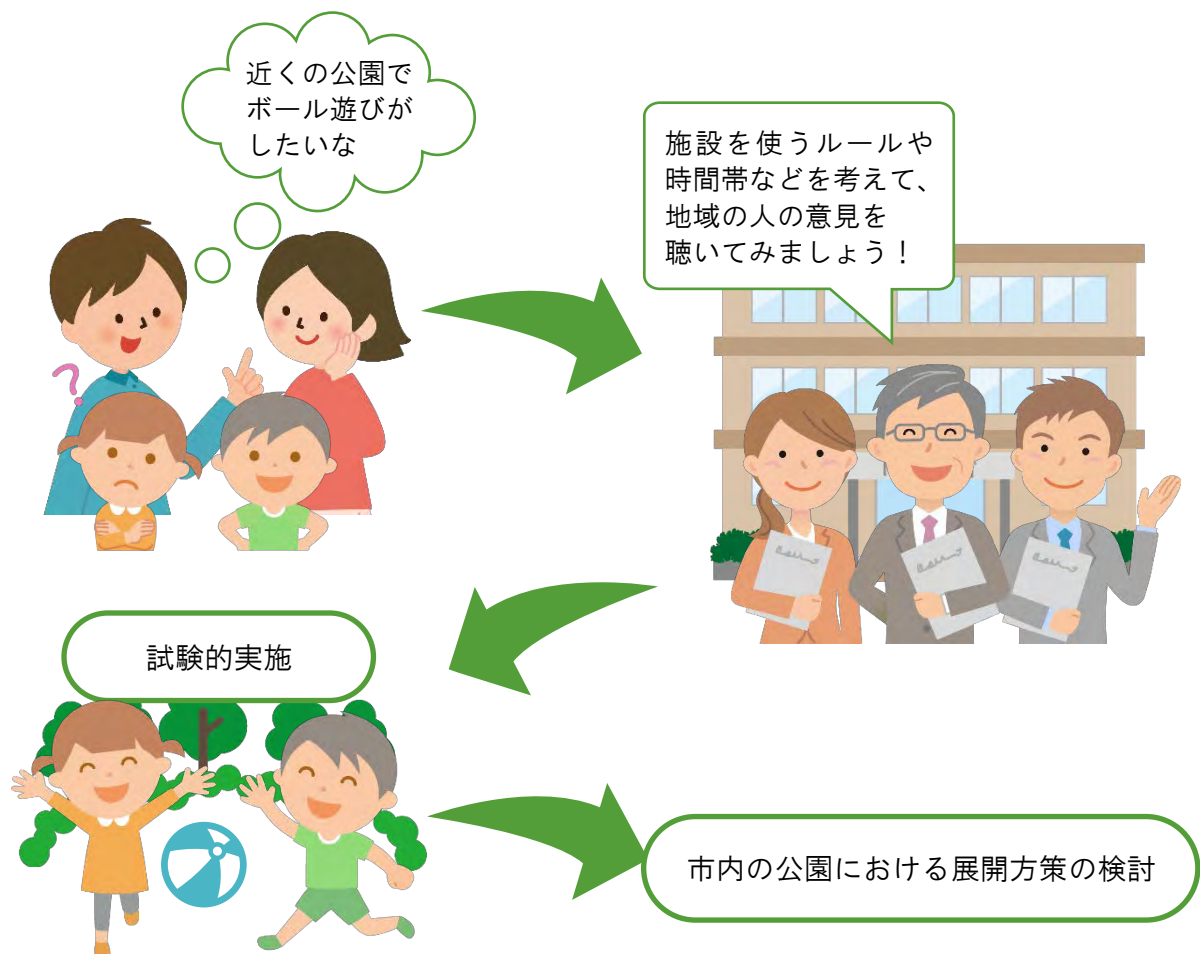
関連する主な取組：施策3.3③(p.52)

①取組内容

- ・ ボール遊びなど、市民からニーズの高い活用策を試行する公園を選定して、施設の管理方法を検討し、地域住民との合意形成を図った上で、試験的に実施します。
- ・ 試行結果に基づき、市内の公園における展開方策を検討します。

②事業計画

取組	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)
試行する公園の選定と施設の 管理方法の検討及び地域住民 との合意形成【新規】					
試験的实施【新規】					
市内の公園における展開方策 の検討【新規】					



重点的な取組 5

安全で快適な公園利用を支える維持管理の推進

関連する主な取組：施策3.3④(p.52)

①取組内容

- ・法令及び国の指針等に基づく遊具の安全点検を継続し、立川市公園施設長寿命化計画に基づき、公園施設（根川緑道のサクラを含む）の長寿命化を進めます。
- ・施設や樹木を適切に維持管理していくとともに、公園の魅力づくりや活用に市民、事業者と協働して取り組んでいくための考え方、方針を示す公園の管理運営方針を作成します。
- ・老木化、大径木化した公園内の樹木が、強大な台風やいわゆる爆弾低気圧などによって倒れ、通行者や家屋などに被害を及ぼす危険性が高まっていることから、「都市公園の樹木の点検・診断に関する指針（案）」（平成29年 国土交通省）に基づき公園の管理運営方針を検討し、都市公園の樹木の点検・診断等を実施して倒木危険度、健全度を把握し、診断結果を基に樹勢回復、老木の更新等の対策を実施します。

②事業計画

取組	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)
公園の管理運営方針の設定 【新規】	検討	→	→	→	→
遊具の安全点検及び公園施設の長寿命化【継続】					→
都市公園の樹木の点検・診断 【新規】			→	→	→



すべり台の角度の点検



木材や金属の腐食の有無の点検

第5章 地域別の方針

第1節 地域区分

上位計画である「立川市都市計画マスタープラン」で示している中長期的な視点による、おおむね20年先の将来像に沿って、各地域における今後の取組の方向性を示します。

地域・地区は、「立川市都市計画マスタープラン」の地域別構想における以下の区分に基づきます。



図 地域・地区区分

第2節 各地域の方針

1 南地域（富士見町・柴崎町・錦町・羽衣町）

（1）現況

- ・骨格となる緑である、立川崖線、残堀川、根川、多摩川河川敷を軸に、連続した緑、まとまった緑が残る地域です。
- ・市内でも古くから人々の生活の場であった集落が形成されてきた地域であり、諏訪神社や普済寺をはじめとする豊富な歴史的資源が、社寺林、屋敷林などとともに残されています。
- ・市内唯一の湿地環境である矢川緑地が市境にあり、生物多様性の観点からも重要な環境を残しています。
- ・自然豊かで、多摩都市モノレール柴崎体育館駅間近の観光資源でもある立川公園、根川緑道とその周辺を含む桜並木があります。
- ・根川緑道の桜並木、平成29（2017）年に開設したガニガラ広場（田んぼ）では、市民による緑の保全活動が進んでいます。
- ・農地がわずかに残り、市民農園が開設されています。

（2）各地区の取組の方向性と取組例

ア．富士見地区

■取組の方向性

緑の骨格と拠点をつなぐネットワークの形成

■取組例

- ・立川崖線の緑の保全と安全確保
- ・富士見公園、東京都農林総合研究センター（旧農業試験場）周辺を拠点とした緑の保全・活用
- ・柴崎分水や昭和用水、残堀川等の水辺や湧水の保全
- ・ＪＲ西立川駅～富士見公園周辺～残堀川～多摩川緑地を連絡する緑豊かな歩行者ネットワークの形成
- ・保存樹木の保全、指定の推進
- ・住区基幹公園の適正規模での配置（身近な公園の確保）
- ・小規模な街区公園が近接する地域における各公園の機能の見直しと再生の検討
- ・幹線道路整備（立3・1・34）に際した道路、沿道の緑化推進
- ・緑の豊かさを感じられるまちなみ形成

イ．柴崎地区

■取組の方向性

自然や歴史と一体となった緑の保全と市民活動の促進

■取組例

- ・立川崖線の緑の保全と安全確保
- ・市民農園の活用を通じた農とのふれあい
- ・保存樹木、保護樹林地の保全、指定推進

- ・ 寺社周辺の歴史的資源と一体となった緑の保全と緑あふれる住環境の形成
- ・ 立川公園の拡充・整備
- ・ 市民協働による根川緑道の桜並木の保全、立川公園ガニガラ広場を拠点とした活動展開
- ・ 根川緑道せせらぎ水の新水源への変更
- ・ 住区基幹公園の適正規模での配置（身近な公園の確保）

ウ. 錦・羽衣地区

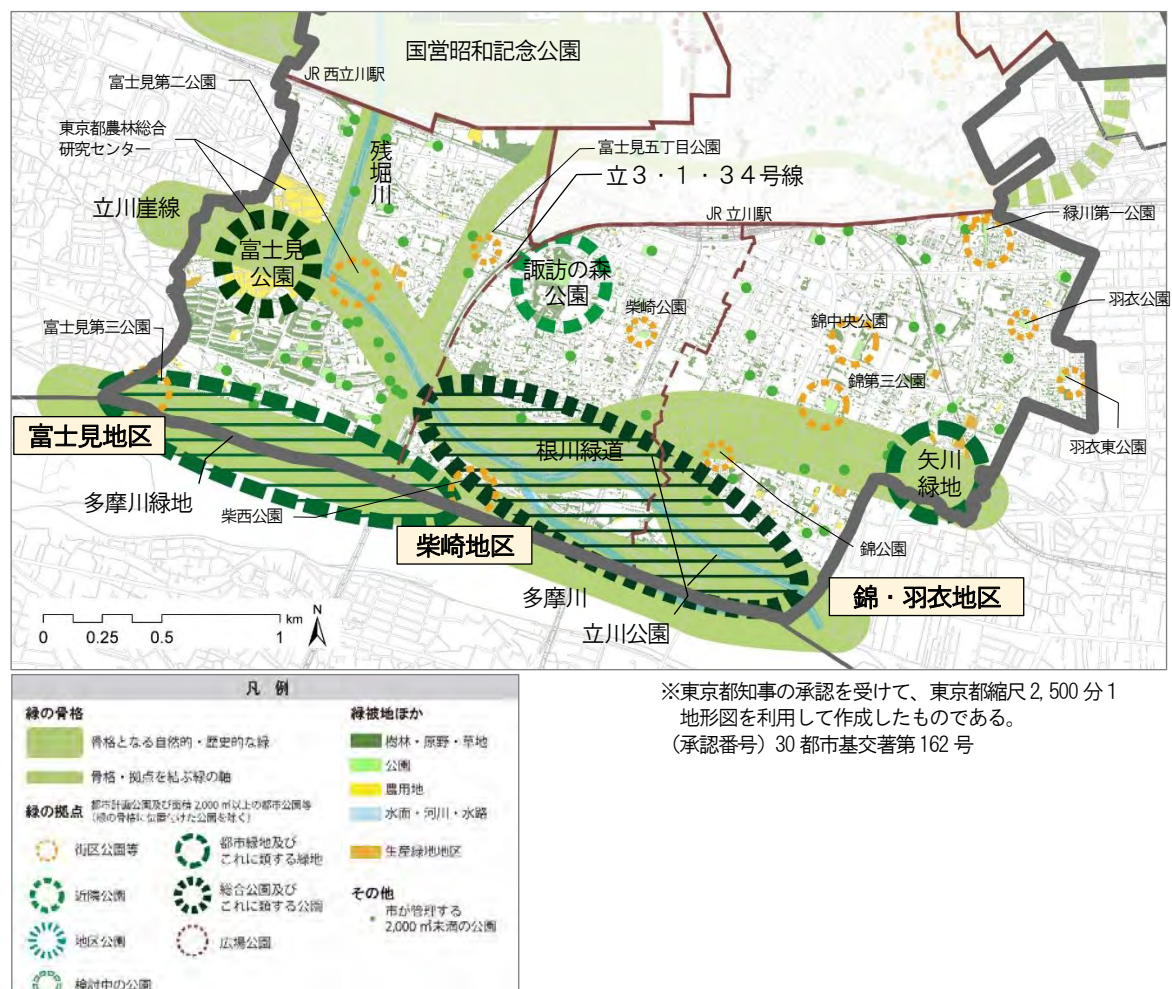
■ 取組の方向性

まちにうるおいをもたらす緑と水辺の保全・活用

■ 取組例

- ・ 立川崖線の緑の保全と安全確保
- ・ 矢川緑地の湿地環境の保全、市民に向けた情報発信
- ・ 多摩川、柴崎分水、矢川緑地等の水辺や湧水の保全
- ・ 保存樹木の保全、指定の推進
- ・ 立川公園の拡充・整備
- ・ 根川緑道せせらぎ水の新水源への変更
- ・ 住区基幹公園の適正規模での配置（身近な公園の確保）
- ・ 緑の豊かさを感じられるまちなみ形成

【方針図】



2 中央地域（泉町・緑町・曙町・高松町）

（１）現況

- ・ＪＲ立川駅、サンサンロード沿道地域を中心に、新しいまちづくりが進む多摩地域の中心となる地域です。
- ・広域的なレクリエーション拠点である国営昭和記念公園が立地し、市内外から多くの人々が訪れています。
- ・市役所南側の公的機関で多くの緑の創出がなされてきました。
- ・サンサンロード沿道において、施設整備に合わせて新たな緑の創出が進展しています。
- ・中心市街地の商業・業務空間においては、多摩地域における交流・活動の中心となる都市にふさわしい、にぎわいと緑の豊かさ、うるおいを兼ね備えたまちづくりが求められています。
- ・狭小な公園が多い場所が見られます。

（２）各地区の取組の方向性と取組例

ア．泉・緑地区

■取組の方向性

国営昭和記念公園、公共施設の豊かな緑を骨格とした緑のネットワークの形成

■取組例

- ・公共施設、道路を中心とした、多摩地域の中心都市にふさわしい、豊かな緑の創出・育成
- ・国営昭和記念公園の整備促進、国営昭和記念公園を拠点とした水と緑のネットワークの形成
- ・「立川基地跡地西側地区」における運動公園等の整備検討

イ．曙・高松地区

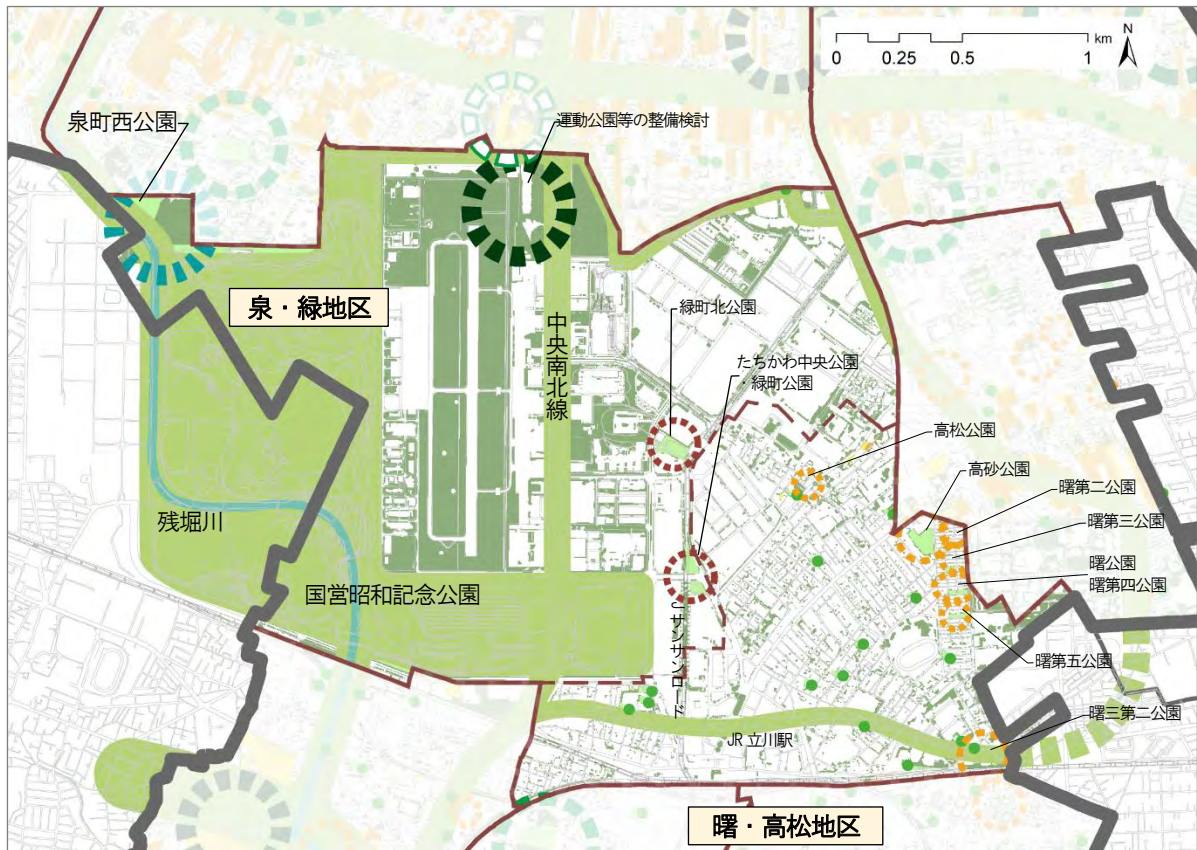
■取組の方向性

訪れる人々をもてなす緑空間の創出

■取組例

- ・ＪＲ立川駅を中心としたまちづくりに合わせた商業・業務空間における緑の創出
- ・住区基幹公園の適正規模での配置（身近な公園の確保）
- ・小規模な街区公園が近接する地域における各公園の機能の見直しと再生の検討
- ・緑の豊かさを感じられるまちなみ形成

【方針図】



凡 例	
緑の骨格	緑被地ほか
骨格となる自然的・歴史的な緑	樹林・原野・草地
骨格・拠点を結ぶ緑の軸	公園
緑の拠点	農用地
都市計画公園及び面積 2,000 m ² 以上の都市公園等 (緑の骨格に位置付けた公園を除く)	水面・河川・水路
街区公園等	生産緑地地区
近隣公園	都市緑地及びこれに類する緑地
地区公園	総合公園及びこれに類する公園
検討中の公園	広場公園
	その他
	市が管理する 2,000 m ² 未満の公園

※東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分 1 地形図を利用して作成したものである。
(承認番号) 30 都市基交著第 162 号

3 北部東地域（若葉町・幸町・栄町）

（１）現況

- ・生産緑地が広く分布し、玉川上水、川越道緑地、五日市街道のケヤキ並木、農家の屋敷林など、武蔵野の面影を残す地域です。
- ・農地のスプロールの市街化が進行しており、樹林地、生産緑地は年々減少傾向にあり、自然環境、貴重な緑地空間である都市農地の保全を図ることが必要です。
- ・地域を南北にはしる栄緑地が緑の骨格軸を形成しており、栄緑地周辺には大小さまざまな公園が立地しています。
- ・狭小な公園が多く、適正規模の公園が乏しい場所が見られます。

（２）各地区の取組の方向性と取組例

ア．若葉・幸地区

■取組の方向性

歴史を伝える緑を保全・活用した緑のネットワーク形成

■取組例

- ・武蔵野の面影を残す豊かな緑の保全
- ・豊かな緑を保全・活用した公園や緑地等を連絡する水と緑のネットワークの形成
- ・玉川上水風致地区、野火止用水、五日市街道のケヤキ並木等歴史を伝える緑の保全
- ・保存樹木、保護樹林地の保全、指定の推進
- ・市民協働による保存樹木等の保全活動の推進
- ・生産緑地の保全
- ・川越道緑地の整備充実
- ・住区基幹公園の適正規模での配置（身近な公園の確保）

イ．栄地区

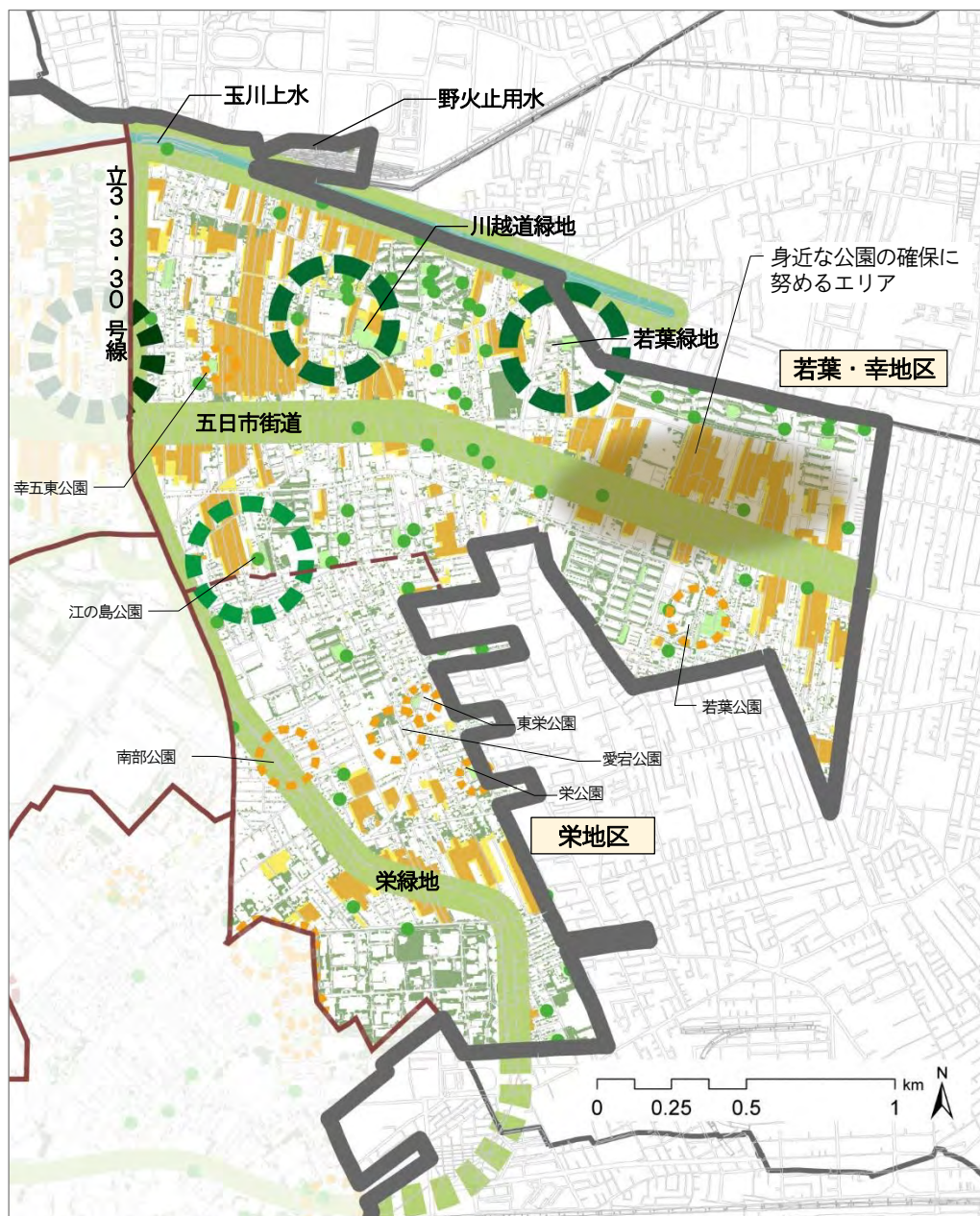
■取組の方向性

栄緑地を軸とした、歩いて楽しい緑のまちづくり

■取組例

- ・栄緑地を緑の骨格軸とした、公園等を連絡する緑豊かな歩行者ネットワークの形成
- ・保存樹木の保全
- ・生産緑地の保全
- ・主要な幹線道路沿道における緑豊かな沿道型市街地の形成
- ・住区基幹公園の適正規模での配置（身近な公園の確保）
- ・小規模な公園が近接する地域における各公園の機能の見直しと再生の検討
- ・緑の豊かさを感じられるまちなみ形成

■方針図



凡 例	
緑の骨格	緑被地ほか
骨格となる自然的・歴史的な緑	樹林・原野・草地
骨格・拠点を結ぶ緑の軸	公園
緑の拠点	農用地
街区公園等	水面・河川・水路
近隣公園	生産緑地地区
地区公園	都市緑地及びこれに類する緑地
検討中の公園	総合公園及びこれに類する公園
	広場公園
	その他
	市が管理する2,000㎡未満の公園

※東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分1地形図を利用して作成したものである。
(承認番号) 30 都市基交著第162号

4 北部中地域（柏町・砂川町・上砂町）

（１）現況

- ・生産緑地が広く分布し、玉川上水、残堀川、五日市街道のケヤキ並木、農家の屋敷林など、武蔵野の面影を残す地域です。
- ・農地のスプロールの市街化が進行しており、樹林地、生産緑地は年々減少傾向にあり、自然環境、貴重な緑地空間である都市農地の保全を図ることが必要です。

（２）各地区の取組の方向性と取組例

ア．上水北地区

■取組の方向性

武蔵野の面影を残す郷土の緑を生かす緑のまちづくり

■取組例

- ・歴史ある玉川上水周辺の自然環境の保全、関係機関と連携した緑の維持管理
- ・保存樹木の保全、指定の推進
- ・生産緑地の保全
- ・主要な幹線道路沿道における緑豊かな沿道型市街地の形成
- ・砂川公園の整備拡充
- ・住区基幹公園の適正規模での配置（身近な公園の確保）

イ．上水南地区

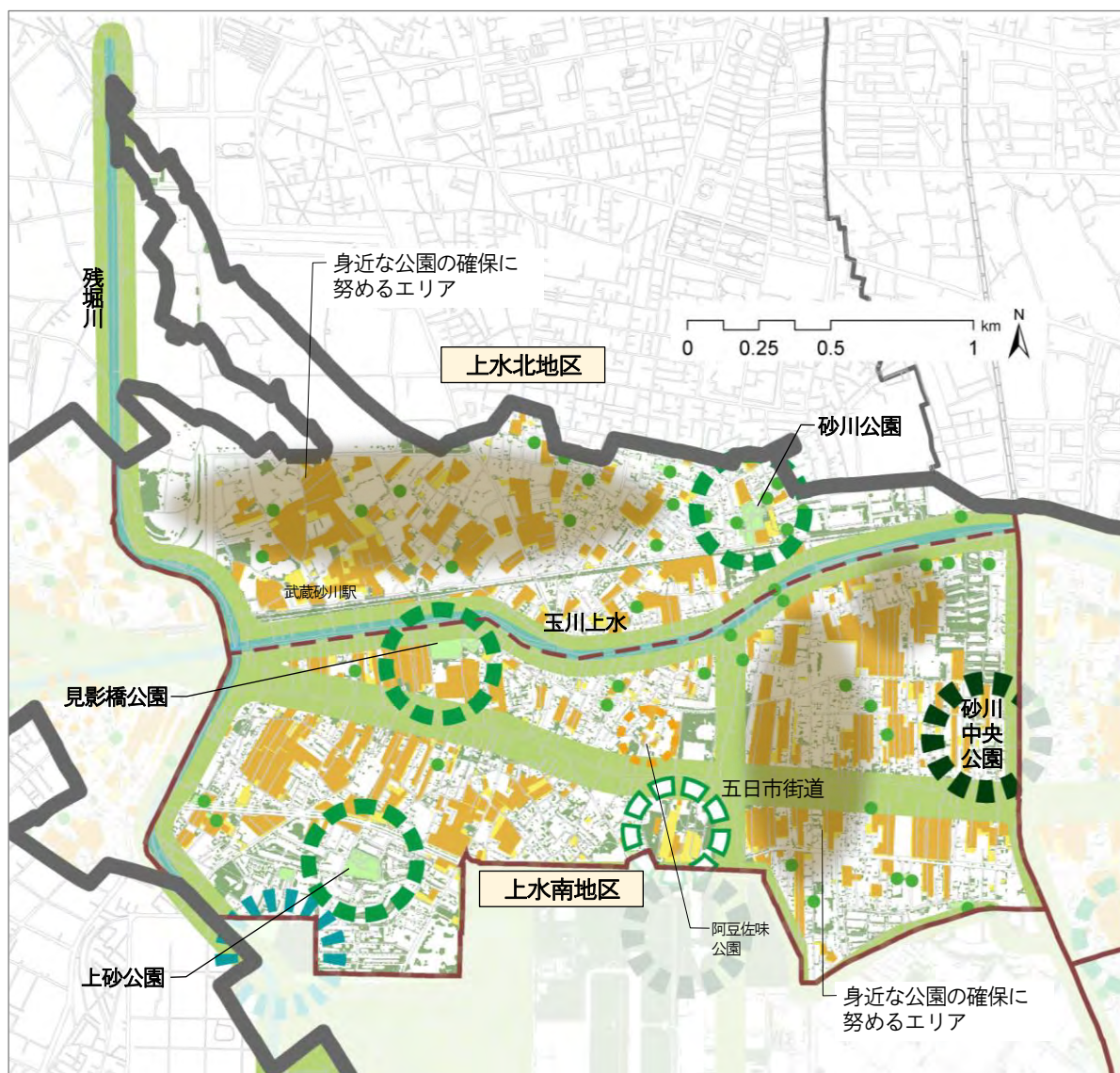
■取組の方向性

武蔵野の面影を残す郷土の緑の保全と緑豊かな住環境の形成

■取組例

- ・玉川上水風致地区、五日市街道のケヤキ並木等の保全
- ・市民協働による保存樹木等の保全活動の推進
- ・生産緑地の保全
- ・住区基幹公園の適正規模での配置（身近な公園の確保）
- ・未整備の都市計画公園に関する検討
- ・主要な幹線道路沿道における緑豊かな沿道型市街地の形成

■方針図



凡 例	
緑の骨格	緑被地ほか
骨格となる自然的・歴史的な緑	樹林・原野・草地
骨格・拠点を結ぶ緑の軸	公園
緑の拠点 都市計画公園及び面積 2,000 m ² 以上の都市公園等 (緑の骨格に位置付けた公園を除く)	農用地
街区公園等	水面・河川・水路
近隣公園	生産緑地地区
地区公園	その他
検討中の公園	市が管理する 2,000 m ² 未満の公園
	都市緑地及びこれに類する緑地
	総合公園及びこれに類する公園
	広場公園

※東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分 1
地形図を利用して作成したものである。
(承認番号) 30 都市基交著第 162 号

5 北部西地域（一番町・西砂町）

（１）現況

- ・五日市街道を中心とした地域で、玉川上水や五日市街道のケヤキ並木、残堀川、一帯に広く分布する生産緑地が、武蔵野の面影を色濃く残しています。
- ・西側は市街化調整区域※となっており、優良な農地が広がっています。
- ・農地のスプロールの市街化が進行しており、樹林地、生産緑地は年々減少傾向にあり、自然環境、貴重な緑地空間である都市農地の保全を図ることが必要です。

（２）各地区の取組の方向性と取組例

ア．一番・西砂地区

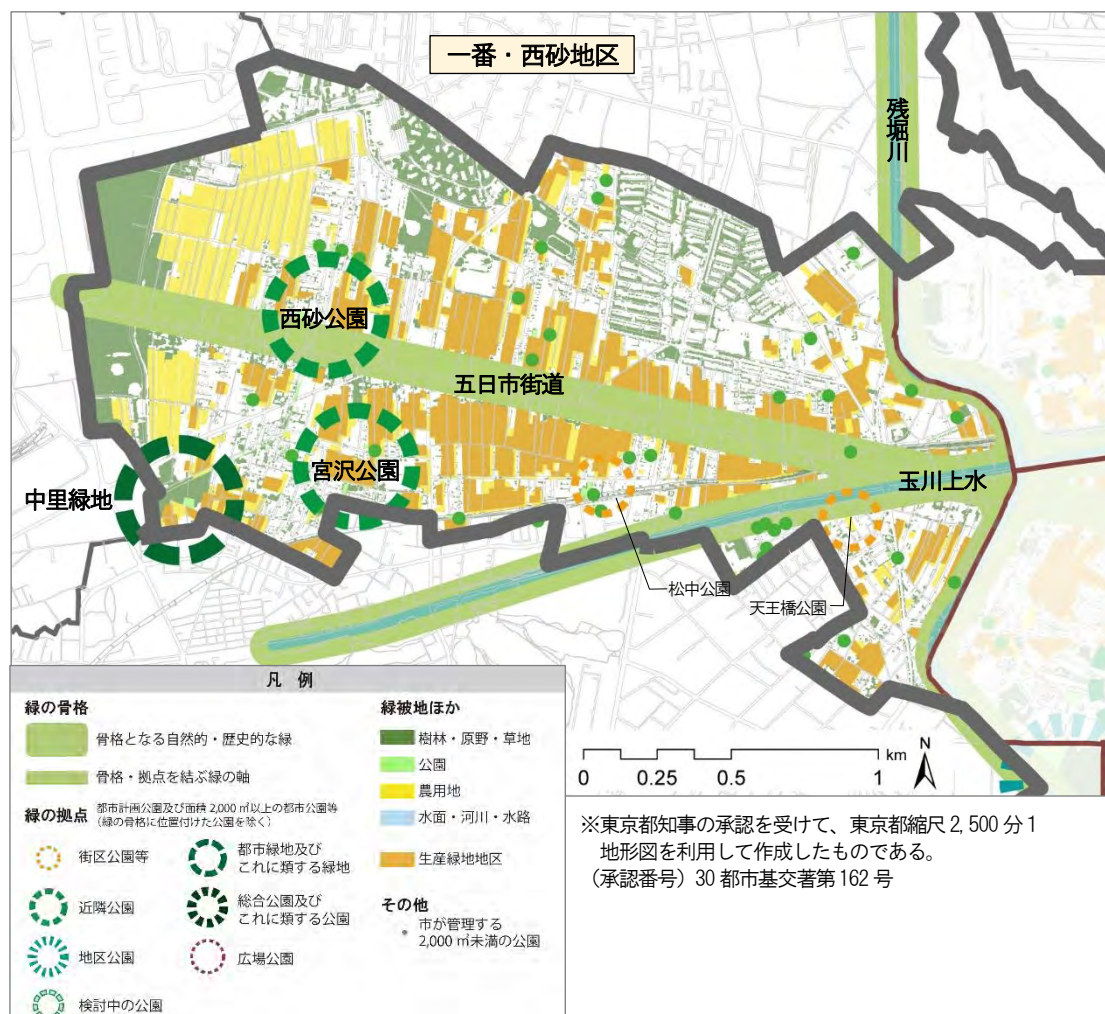
■取組の方向性

豊かな自然環境と農風景の継承

■取組例

- ・五日市道風致地区、玉川上水風致地区の保全
- ・五日市街道のケヤキ並木、屋敷林などの郷土の緑の保全
- ・生産緑地の保全
- ・住区基幹公園の適正規模での配置（身近な公園の確保）
- ・主要な幹線道路沿道における緑豊かな沿道型市街地の形成

■方針図



第6章 緑化重点地区の計画

第1節 緑化重点地区の指定

地域別の方針を公園の整備やまちづくりに反映し、実現していくため、「緑化重点地区」を指定し、緑化の方針を定めます。

「緑化重点地区」は、次の視点を踏まえて、下図に示す5地区を設定しました。

- ・立川市の緑の拠点として都市計画公園・緑地の整備促進を図る必要がある。
- ・立川らしさのある貴重な自然環境があり保全措置を講じる必要がある。
- ・開発事業等のまちづくりや立川市景観計画に基づく景観形成の取組と連携して緑化を推進する必要がある。

- | | | |
|--------------|----------------|---------------|
| (1) 砂川公園周辺地区 | (2) 川越道緑地周辺地区 | (3) 富士見公園周辺地区 |
| (4) 立川公園周辺地区 | (5) J R立川駅周辺地区 | |

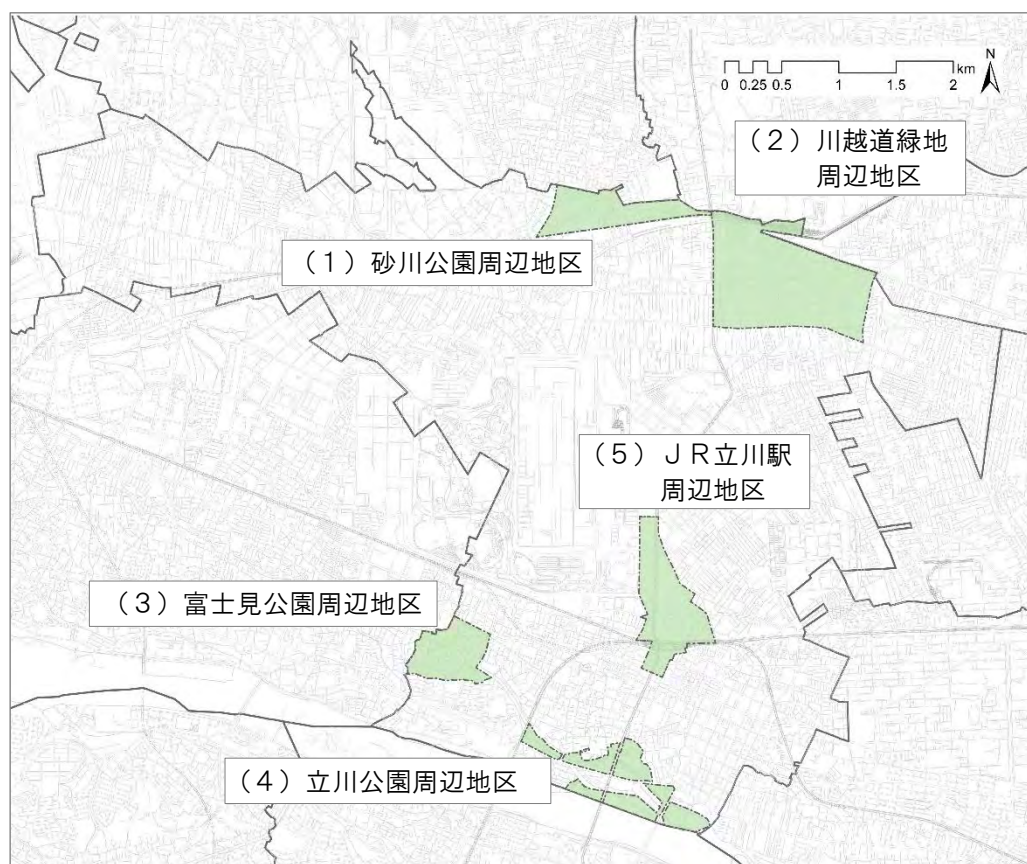


図 緑化重点地区位置図

第2節 各緑化重点地区の方針

(1) 砂川公園周辺地区

①位置

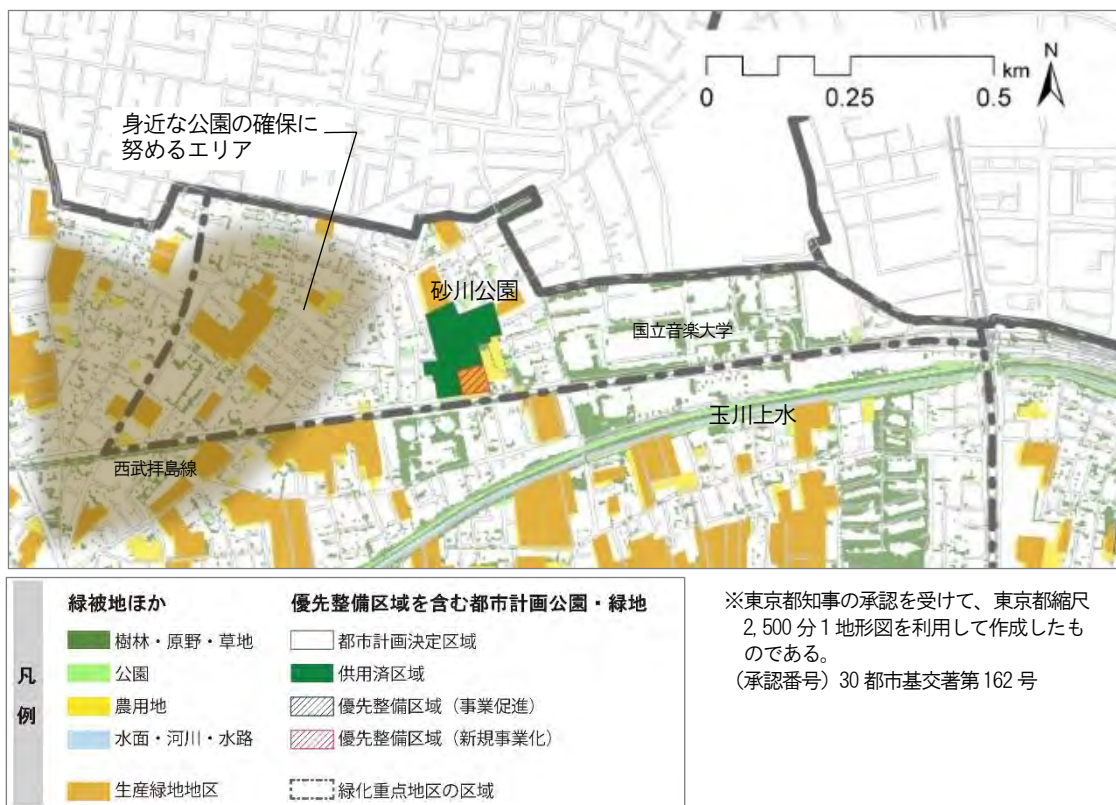
柏5丁目及び砂川町7丁目の西武拝島線北側の区域

②現況

- ・砂川公園周辺地区は、比較的まとまった形で生産緑地が残っているものの、農地のスプロール的市街化の進行により、樹林地、生産緑地などの緑が徐々に減少しています。
- ・宅地開発に伴って設けられた狭小な公園が多く、砂川公園の西側について適正規模の公園が不足しています。

③緑化の方針

- ・砂川公園を地区の拠点として位置付け、「都市計画公園・緑地の整備方針（改定案）」（東京都・特別区・市町）に位置付けた優先整備区域（新規事業化）の事業化に向けた調査、検討を進めます。
- ・住区基幹公園の適正規模での配置（身近な公園の確保）に努めます。
- ・武蔵野の面影を残す郷土の緑である生産緑地等の都市農地の保全に努めます。



(2) 川越道緑地周辺地区

①位置

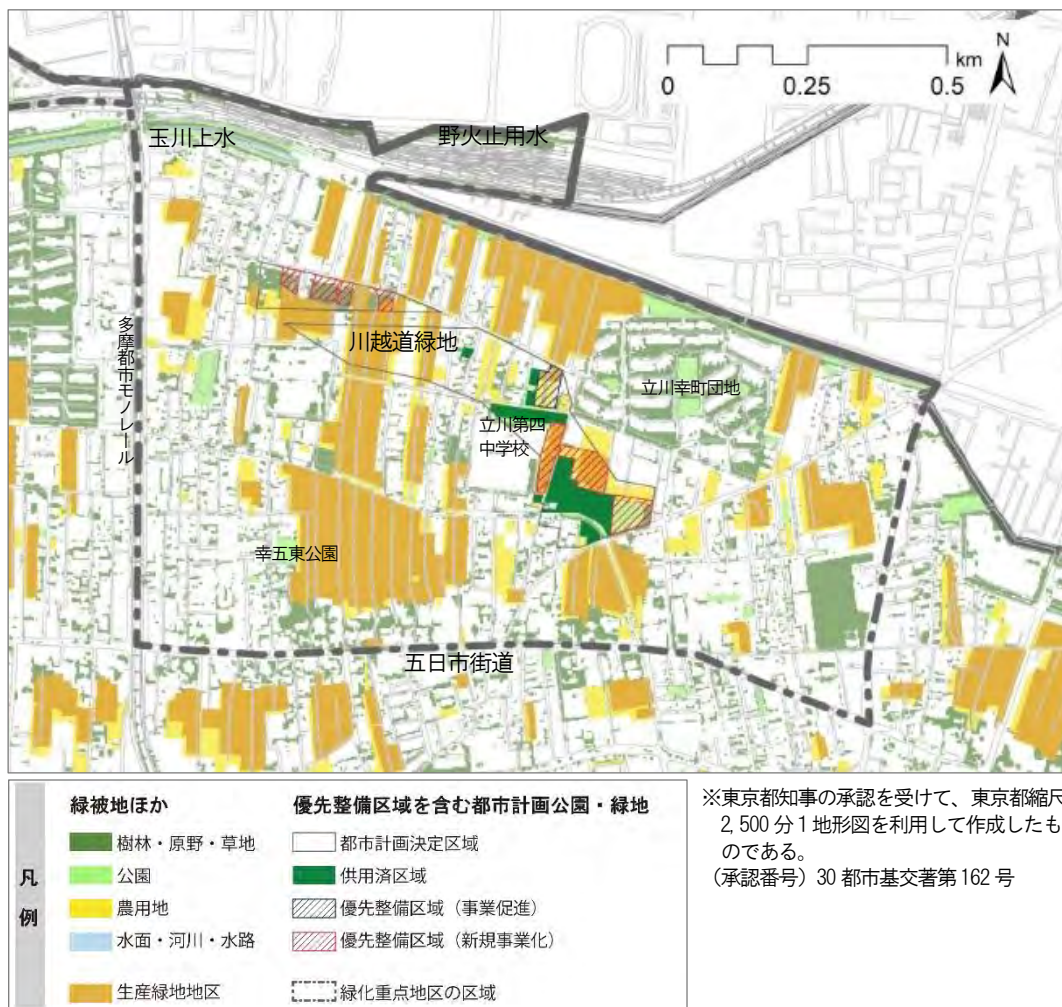
幸町４・５・６丁目の区域

②現況

- ・ 玉川上水と五日市街道に挟まれたエリアに、かつての武蔵野の雑木林の名残であるまとまった樹林地、農地が残され、生産緑地地区に指定された農地も多い地区です。
- ・ 樹林地の一部は保護樹林地に指定しており、かつ多くが川越道緑地として都市計画決定されています。

③緑化の方針

- ・ 武蔵野の面影を残す樹林地と農地が織りなす風景を守り継いでいくため、川越道緑地の優先整備区域（事業促進区域）の整備推進と、優先整備区域（新規事業化区域）の事業化に向けた調査、検討を進めます。
- ・ 保護樹林地を含む屋敷林や生産緑地地区を保全するとともに、これらの緑を生かしながら主要な幹線道路沿道において緑豊かな道づくりを進めます。
- ・ 玉川上水風致地区・玉川上水歴史環境保全地域、野火止用水歴史環境保全地域の緑の保全に努めます。
- ・ 生産緑地等の都市農地の保全に努めます。



(3) 富士見公園周辺地区

①位置

富士見町3丁目の区域

②現況

- ・立川崖線の斜面に連続した緑が多く残され、湧水もあるなど、崖線の自然環境が良好に残されています。
- ・崖線の緑の一部は、富士見緑地公園、東京都の立川崖線緑地保全地域により保全されています。また、東京都農林総合研究センターの敷地内にも崖線の緑が保全されています。

③緑化の方針

- ・立川崖線を骨格とする緑のネットワークを保全していくため、本市の緑の拠点の一つとなる富士見公園の優先整備区域（新規事業化区域）の事業化に向けた調査、検討を進めます。
- ・民有地を含め、崖線の連続した緑、湧水、これらの環境に生息・生育する生きものの保全に努めます。



※東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分1地形図を利用して作成したものである。
（承認番号）30 都市基交著第162号

（４）立川公園周辺地区

①位置

柴崎４・５・６丁目及び錦町５・６丁目にかけて都市計画決定されている立川公園の区域

②現況

- ・延長約 1.3km の根川緑道を軸に、立川崖線の緑や多摩川、根川緑道などの豊かな自然、市民に親しまれている花の名所である根川緑道の桜並木、体育館や野球場、陸上競技場などのスポーツ施設を擁する、本市を代表する公園であり、本市の緑のネットワークを構成する骨格の一部を担っています。
- ・平成 29（2017）年には、立川崖線の緑や湧水と柴崎用水路を生かしたガニガラ広場が開園し、市内唯一の田んぼで市民参加の活動が行われています。

③緑化の方針

- ・骨格となる自然的・歴史的な緑である立川崖線の緑の保全を進め、緑の連続性を維持します。
- ・立川公園の優先整備区域（事業促進区域）の整備推進と、優先整備区域（新規事業化区域）の事業化に向けた調査、検討を進めます。
- ・根川緑道の親水空間の保全と活用、桜並木の保全を進めます。
- ・緑の普及・啓発拠点として、ガニガラ広場の田んぼの管理と活用を市民協働で進めます。また、ビオトープ周辺で自然体験などの市民講座により生物多様性の啓発を進めます。



(5) JR立川駅周辺地区

①位置

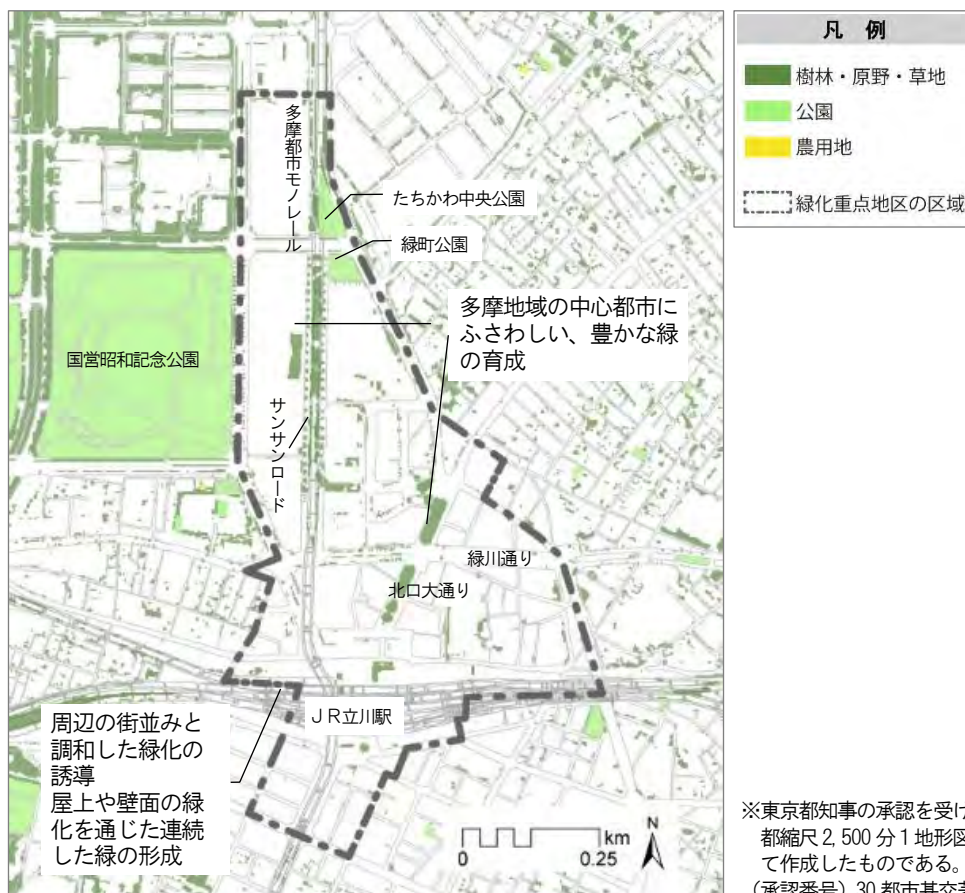
立川市景観計画に基づく都市軸沿道地区及び中心市街地地区に該当する区域

②現況

- ・多摩地域の広域的な拠点として、商業・業務機能等の集積が進み、大規模なビルを中心としながら、中小規模の店舗などもみられます。
- ・北口大通りには、街路中央に大きなケヤキ並木があり、象徴的な緑の景観をつくり出しています。
- ・サンサンロードのケヤキ並木をはじめとする様々な緑が、まちの活力向上につながるうおいある都市空間を創出しています。

③緑化の方針

- ・市街地開発事業により計画的に配置された緑や憩いの広場の大樹などの緑を適切に維持管理し、多摩地域の中心都市にふさわしい、豊かな緑を育成していきます。
- ・民間による新たな施設整備や開発事業に際しては、周辺の街並みと調和した緑化を誘導するとともに、屋上や壁面の緑化を通じて連続した緑の形成を促していきます。

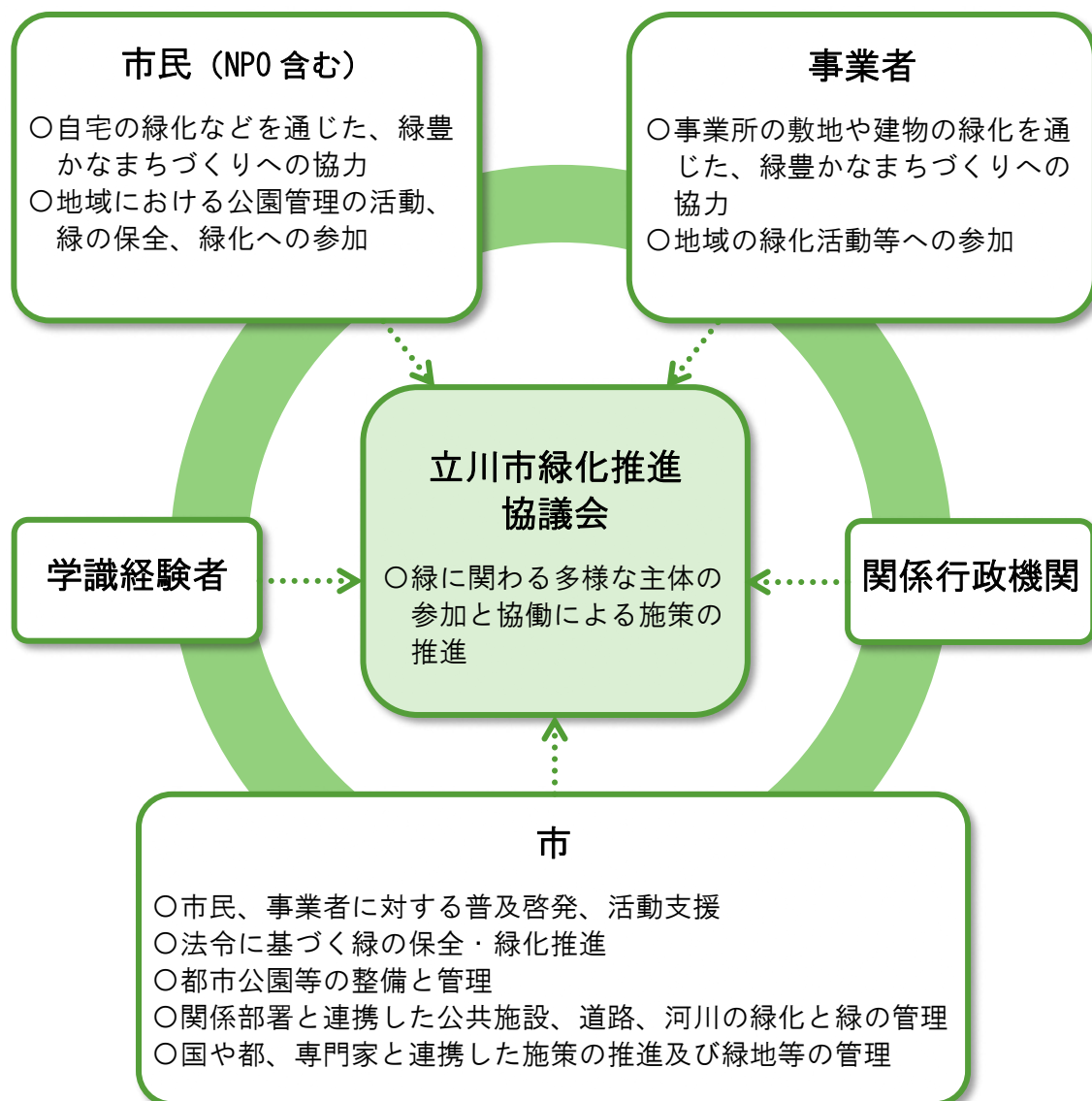


第7章 推進体制及び進行管理

第1節 推進体制

本市の緑を守り、豊かさを高め、生かしていくためには、市民、事業者、市がそれぞれの役割を理解し、協力して取組を進めていくことが必要です。

本計画の実現に向けて、市民、事業者が、それぞれ身近な緑を守り、育み、生かすとともに、市は、市民の活動支援、事業者による緑化の誘導、市民協働による都市公園等の整備と管理運営などに取り組み、多様な主体で構成する「立川市緑化推進協議会」を活用して施策を推進します。



注：立川市緑化推進条例により、市民・関係行政機関の職員・学識経験を有する者が協議会委員として調査又は審議を行います。

図 各主体の役割と推進体制

第2節 進行管理

本計画に基づく施策の実効性ある推進を図るため、PDCA サイクルに沿って目標の達成状況を定期的に点検・評価し、継続的に見直しを図ります。

具体的には、年度ごとに、各方針の目標に設定した指標の推移を点検・評価します。また、5つの重点的な取組について事業計画の実施状況を点検し、次年度以降の事業計画について必要に応じて見直します。

計画期間の最終年次（令和6（2024）年度）には、計画全体の目標及び方針ごとの目標の達成状況と全ての施策の進捗状況を検証し、立川市緑化推進協議会において点検・評価を行い、必要な見直しを図ります。

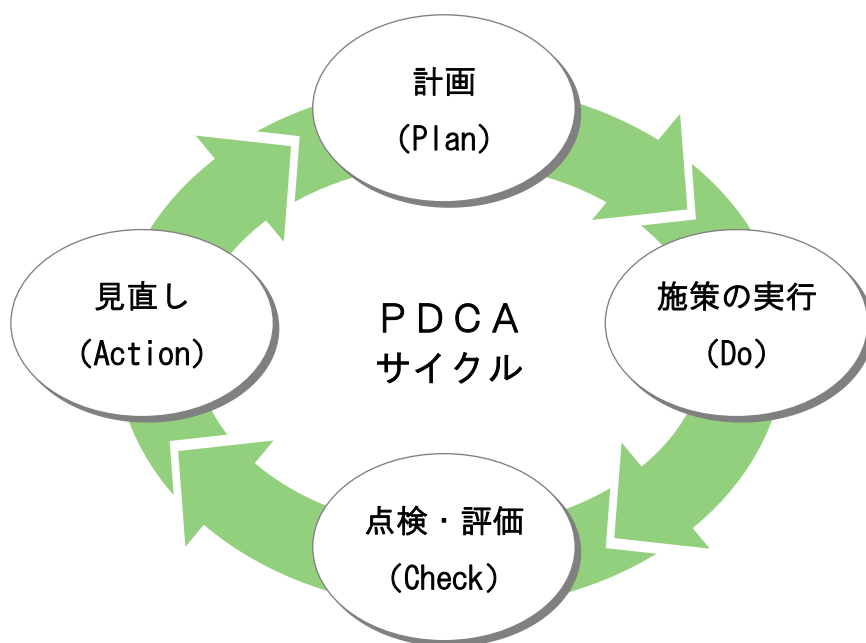


図 PDCAサイクル

資 料 編

1 立川市緑化推進条例

昭和49年4月1日条例第9号

改正

平成12年7月24日条例第46号

立川市緑化推進条例

(目的)

第1条 この条例は、緑の保護及び緑化の推進（以下「緑化の推進」という。）を図り、もって市民の健康な生活環境を確保することを目的とする。

(責務)

第2条 市長は、緑化の推進に関する施策（以下「緑化施策」という。）を定め、その実施に努めなければならない。

2 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、緑化の推進を図り、かつ、緑化施策に協力するとともに、市民の生活環境を妨げることのないよう必要な措置を講じなければならない。

3 市民及び市内に土地を有する者は、自ら緑化の推進をし、緑化施策に協力するとともに、健全な環境の形成に努めなければならない。

(保護区域等の指定)

第3条 市長は、市民の良好な生活環境を確保するため、良好な自然環境を有する樹林地として保護することが必要な土地（以下「保護樹林地」という。）又は樹木の集団（以下「保存樹林」という。）若しくは樹木（以下「保存樹木」という。）を指定するものとする。

2 市長は、保護樹林地又は保存樹林若しくは保存樹木（以下「保護区域等」という。）の指定をするときは、あらかじめ所有者及び占有者（以下「所有者等」という。）の同意を得なければならない。この場合において、保護樹林地の指定をするときは、所有者と当該保護樹林地について使用貸借、管理の委任その他の契約を締結するものとする。

(保存樹林等の指定の申請)

第4条 樹木の集団又は樹木の所有者等は、前条第1項の規定にかかわらず、保存樹林又は保存樹木（以下「保存樹林等」という。）の指定を市長に申請することができる。

2 市長は、前項の規定による申請があったときは、調査及び確認を行い、その適否を決定しなければならない。

(指定の解除)

第5条 市長は、保護区域等の指定の理由が消滅したときは、その指定を解除しなければならない。

2 市長は、公益上その他特別の理由があると認めたときは、指定を解除することができる。

(標識の設置等)

第6条 市長は、保護区域等を指定したときは、これを表示する標識を設置しなければならない。

- 2 何人も、前項の規定により設けられた標識を損傷し、又は市長の承諾を得ないで移転し、若しくは除去してはならない。

（保護等の義務）

第7条 保存樹林等の所有者等は、その保存樹林等を善良な注意をもって管理し、及び保護し、その育成に努めなければならない。

- 2 市長は、保護樹林地については、第3条第2項後段に規定する管理の委任契約に基づき、当該保護樹林地を管理しなければならない。

（権利等の承継）

第8条 保護区域等の所有者等が変更したときは、新たに所有者等となったものは、その保護区域等に係る権利及び義務を承継するものとする。

（届出）

第9条 保護区域等の所有者等は、その保護区域等が滅失その他これに類する変更が生じたとき又は土地の造成その他これに類する変更をしようとするときは、市長に届け出なければならない。

- 2 市長は、前項に規定する届出があった場合において、必要があると認めたときは、適切な助言又は勧告をすることができる。

（助成の義務）

第10条 市長は、保存樹林等の管理及び緑化の推進に要する費用について、必要な助成措置を講ずるよう努めなければならない。

（公共施設の緑化）

第11条 市長は、その設置し、又は管理する道路、公園、学校その他公共施設について、緑化の推進を図らなければならない。

（緑化の啓発義務）

第12条 市長は、あらゆる機会を通じて、緑化の推進について意識の向上に努めなければならない。

（協議会）

第13条 市長の諮問に応じ、緑化の推進に関する重要事項について調査又は審議を行わせるため、立川市緑化推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

- 2 協議会は、委員20人以内をもって組織する。

- 3 委員は、次の各号に掲げる者につき、市長が任命する。

- (1) 市民 12人以内
- (2) 削除
- (3) 関係行政機関の職員 3人以内
- (4) 学識経験を有する者 5人以内

- 4 前項第1号及び第4号に掲げる委員の任期は、2年とし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任されることができる。

- 5 協議会に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選によって定める。
- 6 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 7 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 8 協議会は、会長が招集する。
- 9 協議会は、委員の定数の過半数の者が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 10 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(委任)

第14条 この条例の施行について必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成4年3月31日条例第7号）

この条例は、平成4年4月1日から施行する。

附 則（平成12年7月24日条例第46号）

この条例は、公布の日から施行する。

2 立川市緑化推進協議会開催経緯

(1) 立川市緑化推進協議会名簿

(敬称略)

区分		所属・氏名
市民 (立川市緑化推進条例第13条第3項第1号)	市民公募	森田 寛臣
		福澤 マリ子
		宗像 ヨシ子
	立川市自治会連合会	須崎 幹夫
	障害者団体	立川市肢体不自由児・者 父母の会 たつのこ 三鴨 久恵
	緑地、樹林地等保全 ボランティア団体	立川自然観察友の会 鈴木 功
		NPO法人 グリーンサンクチュアリ悠 渡邊 貴美
		NPO法人 集住グリーンネットワーク 甲野 毅
関係行政機関の 職員 (立川市緑化推進条例第13条第3項第3号)	東京都 環境局 多摩環境事務所	自然環境課 平成30年度 松永 満香 平成31年度・令和2年度 幸山 春菜
	東京都 産業労働局 農業振興事務所	農務課 平成30年度・平成31年度 玉藤 さやか 令和2年度 中里 雅美
学識経験者 (立川市緑化推進条例第13条第3項第4号)	立川市農業委員会	馬場 宏
	樹木医	一般社団法人 日本樹木医会 東京都支部 椎名 豊勝
	大学教授 (准教授)	筑波大学 システム情報系 社会工学域 教授 ◎村上 暁信
		東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 准教授 ○阿部 伸太

◎ 会長 ○ 副会長

オブザーバー	国営昭和記念公園事務所 調査設計課 皆川 望夢
--------	----------------------------

(2) 開催日及び審議内容

開催日	会議等名称等	主な審議事項
平成 30（2018）年 9 月	市民アンケート実施	
平成 30（2018）年 11 月 13 日	第 1 回緑化推進協議会	・ 諮問 ・ 計画改定について
平成 31（2019）年 2 月 18 日	第 2 回緑化推進協議会	・ 市民アンケート結果報告 ・ 緑の現況と課題 ・ 計画改定の視点
令和元（2019）年 6 月 14 日	第 3 回緑化推進協議会	・ 改定計画の方向性 （目標等の考え方、市民が担う 緑の保全、緑化の取組等）
令和元（2019）年 9 月 10 日	第 4 回緑化推進協議会	・ 骨子（案）（たたき台） （基本方針、目標の考え方、主な 施策等）
令和元（2019）年 12 月 26 日	第 5 回緑化推進協議会	・ 骨子（案）
令和 2（2020）年 6 月 書面開催	第 6 回緑化推進協議会	・ 素案（案）
令和 2（2020）年 7 月 13 日	第 7 回緑化推進協議会	・ 素案（案） ・ 答申（案）

3 用語解説

	用語	説明
あ	雨水流出抑制対策	雨水を一時的に貯留したり、地下に浸透させたりすることで、河川の負担を軽くし、水害を防止・軽減する取組のこと。
	オープンスペース	公園・広場・河川・農地など、建物によって覆われていない土地、あるいは敷地内の空地の総称。
か	街区公園	誘致距離 250m の範囲内で 1 か所当たり面積 0.25ha を標準として配置する、主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園。
	開発提供公園	都市計画法による開発行為に伴い整備され、市に帰属された公園のこと。
	近隣公園	誘致距離 500m の範囲内で 1 か所当たり面積 2ha を標準として配置する、主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園。
	グリーンインフラ	社会資本整備や土地利用などのハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組のこと。 (43 ページにコラム掲載)
さ	市街化区域	都市計画法による都市計画区域のうちのひとつ。既に現在市街地を形成している、もしくは線引きをされてから 10 年の間に市街化を図るべきと判断されたかのいずれかの区域。市街化区域内では用途地域が定められ、土地利用について細かく規制が定められている。
	市街化調整区域	都市計画法による都市計画区域のひとつ。市街化を抑制すべき区域。
	持続可能な開発目標 (SDGs)	平成 27 (2015) 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された国際目標。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成される。
	市民緑地認定制度	民有地を、地域住民の利用に供する緑地として設置・管理する者が、設置管理計画を作成し、市区町村長の認定を受けて、一定期間当該緑地を設置・管理・活用する制度（都市緑地法第 60 条）。
	住区基幹公園	住民の日常の利用に供する比較的小規模な公園の分類のこと。規模の小さいものから街区公園、近隣公園及び地区公園がある。
	ストック効果の向上	整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果のこと。
	スプロール	市街地が無計画に拡大し、虫食い状の無秩序な市街地を形成すること。

	用語	説明
	生産緑地（地区）	市街化区域内の農地について、その緑地機能を評価し、将来にわたる計画的なまちづくりを推進する観点から都市計画に定める地域地区。
	生物多様性	地球上に多様な生きものが存在していること。生態系、種間（種）、種内（遺伝子）の3つのレベルで多様性があるといわれている。
た	東京都保全地域	東京都が「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づき、良好な自然地や歴史的遺産と一体になった樹林などを保全地域に指定する制度。本市には、矢川緑地保全地域、立川崖線緑地保全地域、野火止用水歴史環境保全地域及び玉川上水歴史環境保全地域の一部が含まれる。
	特定生産緑地	都市計画決定から30年が経過した生産緑地について、所有者等の意向を基に、買取りの申出が可能となる期日を10年延期する制度。
	都市計画公園・緑地の整備方針	都市計画公園・緑地の計画的・効率的な整備を進めることを目的として、東京都と区市町で令和2（2020）年7月に改定した方針。
	都市農地貸借法	「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」の略称で、都市農地（市街化区域内の農地のうち生産緑地）の貸し借りをスムーズに行うために制定された法律のこと。
は	風致地区	都市計画法に基づく地域地区の一つ。都市における風致を維持するために定められる。「都市の風致」とは、都市において水や緑などの自然的な要素に富んだ土地における良好な自然的景観のこと。
	保存樹木・保護樹林地	市内に残された貴重な緑を次代へ引き継ぐために、「立川市緑化推進条例」に基づき、指定した樹木、樹林地のこと。
ま	緑のネットワーク	都市公園や緑地を、緑道や街路樹、河川などの水辺によって結び、人々や生きものが相互に行き来できるような緑の連続性をつくっていくこと。
	緑確保の総合的な方針	特に減少傾向にある民有地の既存の緑を計画的に確保することを目的として、東京都と区市町村で令和2（2020）年7月に改定した方針。
	みどり率	緑が地表を覆う部分（緑被地）に公園区域・水面を加えた面積が、地域全体に占める割合のこと。
や	屋敷林	家の建っている敷地内の林。防風や防雪の目的で設置。
ら	緑被率	一定区域の中で、上空から見て芝や高木の樹冠など緑が地表を覆う部分の面積が占める割合のこと。

立川市緑の基本計画 原案

令和2（2020）年 月 発行

発行 立川市
〒190-8666
東京都立川市泉町 1156 番地の9
電話 042-523-2111（代表）
FAX 042-521-3020
ホームページ <http://www.city.tachikawa.lg.jp/>
編集 まちづくり部公園緑地課